

学校活動参加型＋子育てサロン型（小学校）

学校名等	垂井町立府中小学校
実施日時	令和元年11月9日(土)・12月14日(土)
会場	各教室
参加人数	保護者（15名）全校生徒（251名）
学習課題（分野）	絵本の読み聞かせ
運営者の願い	対象の学年に合わせて、親から子へ伝えたい思いを伝える本を選び、読み聞かせによって伝える機会をつくる。

学 習 の 内 容

<学習内容>

1. 土曜授業の朝の時間、各教室に分かれて絵本などの読み聞かせをする。
2. 絵本を読んだあとに、子どもたちそれぞれに感想を書き、読んでくださった保護者が目を通せるようにする。
3. 子どもたちから感想をもらう。一部学年では、ワークショップ形式で子どもたちの声を集めた。
4. 読み聞かせ終了後に保護者で茶話会を開く。茶話会では、どんな本を読んだか、子どもたちがどんな様子だったかなど、意見交換が活発に行われた。

<ワークショップの内容>

「しあわせのバケツ」の読み聞かせを行った後に、2つのバケツの絵を提示した。1つは、「私は、こんな事が嬉しくて幸せな気分よ！」のバケツであり、もう1つは、「こんな事をされると空っぽになるよ！」のバケツである。

このバケツの絵に、どんな事があるとそういう気持ちになるのかを、赤色と青色の付箋に書き、貼っていった。この結果を校内にも掲示し、全校の児童に読んでもらうことで、「一人でも多くの子が幸せのバケツをいっぱいにできたら、みんなが幸せに生活することができること」を学んでほしいと考えた。



<児童の感想> 6年生の感想より：読んだ本「注文の多い料理店」

- ・ 読んだことはあるが、人に読んでもらうとまた印象が違って面白かった。
- ・ もう一度自分で読んでみようと思った。
- ・ 宮沢賢治の他の作品も読んでみようと思った。

<参加していただいた、保護者の感想>

- ・ 子どもたちが真剣に聞いてくれて、読みがいがあった。
- ・ 楽しそうに聞いてくれて、うれしかった。
- ・ 先生も協力してくれて、より子どもたちが楽しめたと思う。
- ・ 緊張したが、子どもたちの真剣に聴いている顔を見たらうれしくて、緊張が解けた。
- ・ 集中して聴いてくれた。
- ・ 長めの本を読んだが、集中して素直に反応して聴いてくれたのがうれしかった。
- ・ 読み終わってすぐに「すごい」「おもしろかった」と反応してくれたので、うれしかった。



読み聞かせの選書

学校の行事に合わせて人権の本を選び、読み聞かせることで、子どもの意識を高めることができた。

また、ワークショップを行うことで、自分の生活を結び付けて考えさせることができた。



保護者同士の交流

読み聞かせに参加することで、学年を超えた保護者同士の交流ができた。

また、「子ども新聞」を持ち寄って読み合うなど、最新的话题を学び、次回の読み聞かせに生かす話し合いができた。

